

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	音 楽（一 般）
発行者	総合的な所見
教 出	第1の観点 ①歌うための姿勢や母音の発音についてイラストを使用して示しており、それらを意識しながら歌えるように参考楽曲を示している。また、年間を通して段階的に表現の工夫に繋がるよう示している。 ②教材のページの端に縦書きで題材名、教材名の下に活動ポイントを示している。 第2の観点 ③曲を比較してそれぞれの曲の特徴を生かした表現の工夫を考えさせたり、旋律のまとまりを感じ取り表現の仕方を考えさせる「ACTIVE！」を掲載している。 ④「ACTIVE！」の中で、「見方・考え方」の手立てとなる音楽を形づくっている要素にフォーカスして鑑賞できるよう示している。 第3の観点 ⑤巻頭に、様々な演奏者の想いやメッセージと教材曲の作曲者に関する内容および自筆譜を掲載している。 ⑥「劇場・音楽堂へ行こう！」として音楽とのかかわり方を紹介する資料を掲載している。 第4の観点 ⑦第1学年の鑑賞教材として、箏曲「六段の調」、尺八曲「鹿の遠音」、日本とアジアの声によるさまざまな表現、日本とアジアをつなぐ音、郷土のさまざまな民謡、歌唱教材として、「ソーラン節」、「かりぼし切り歌」、「故郷（全校合唱）」を掲載している。 ⑧全学年とも歌唱教材、鑑賞教材、創作の順に配列している。その後、「歌のアルバム」の合唱曲集、国歌「君が代」、楽典、資料の順に配列している。 第5の観点 ⑨各学年の巻頭の「学習 MAP」のページに、「学習の進め方 How to Study」というコーナーがあり、歌唱・鑑賞・創作の場面で、「音楽をかたちづくっている要素」を手がかりに学習を進め、よりよい表現を工夫するよう意識付けている。

	⑩いくつかの教材に二次元コードを記載し、イメージ画像とともに範唱を聴くことができ、曲のイメージをもつことができる。鑑賞教材では、楽曲を鑑賞することができ、ワークシートの活用ができる。
教 芸	第1の観点 ①第1学年の教科書には、「声の出る仕組み」についてイメージし、意識して実践できるよう、息の通り道が分かるイラストを示している。また、成長の段階に合わせて表現の工夫に繋がるよう意識して示している。 ②教材ページの端に縦書きで学習目標と音楽を形づくっている要素を、教材名の下に活動文を示している。 第2の観点 ③「学びのコンパス」で「見方・考え方」を働かせて深い学びを実現するための手立てを示している。 ④「学びのコンパス」の中で、セリフにより対話を促す例示がされている。 第3の観点 ⑤巻頭に、様々な表現活動にかかわる人物のメッセージと「音楽とは何か」について様々な分野の人による多角的な考えを掲載している。 ⑥「生活や社会の中の音や音楽」で音や音楽と生活や文化の関りについての資料を掲載している。 第4の観点 ⑦第1学年の鑑賞教材として、雅楽「平調 越天楽」一管絃一、箏曲「六段の調」、日本の民謡、郷土に伝わる民謡をしらべよう、歌唱教材として、「越天楽」の唱歌を歌おう、「ソーラン節」、「涙そうそう」、「上を向いて歩こう」を掲載している。 ⑧第1学年では、歌唱教材、鑑賞教材、合唱曲集、楽典、国歌「君が代」の順に配列しており、創作については、関連する歌唱教材及び鑑賞教材のあとに配列している。第2・3学年は、歌唱教材、創作、鑑賞教材、合唱曲集、楽典、国歌「君が代」の順に配列している。 第5の観点 ⑨各学年の巻頭の「学習内容」のページで、それぞれの教材で、どのようなことを学習するのかを示し、音楽を形づくっている要素との関連も示している。また、掲載している各曲の見開きの左側にも、教材と音楽を形づくっている要素との関連を示し、その曲での学習内容を意識付けている。

	⑩各教材に二次元コードを掲載し、パート別の旋律、ピアノ伴奏が再生でき、生徒が主体的に学習に取り組むことができる。また、内容や図等の補足説明を見ることやワークシートの活用ができる。
--	---